

金沢城公園 鼠多門橋(木装工事)



- (概要) 県は平成27年に鼠多門・鼠多門橋の復元を計画し、埋蔵文化財調査や絵図・文献調査の結果に基づき、橋は安全基準を満たす鋼構造としながら、本体を木材で覆うこと(装飾)で、美観的復元を実現するよう設計した。

橋梁本体は「復元」ではないものの、本整備計画は金沢城内から鼠多門を介し、金谷出丸(現 尾山神社境内)へとつながる「動線」の復元を果たすこととしている。

- (仕様) 木装の材種は、「能登ヒバ」を用い、等級は「小節」とした。また、腐朽・蟻害対策として、木材保存剤の加圧注入処理を施し、加えて撥水性・防汚性・耐久性を期して木材表面の塗装材として「ガラス質塗料」を採用した。


木材は複雑な形状(加工)にも対応し、かつ景観上優れたものとするため、集成材ではなく無垢材とし、材厚は各部に於いて20~50mmとした。木材の主部材(鋼)への取り付け方法は、主部材に溶接されたスタッドが木材を貫通し材厚のなかでナット締めを行い、表面に木栓を施すことで表面からは鋼が露見しない仕組みとしている。



柱脚部及び上げ裏



橋上から門を望む

 県産材採用:能登ヒバ

DATA

⑤公園休憩施設
金沢市丸の内~尾山町 地内
平成30年12月~令和2年7月
S造、能登ヒバ張
延床面積:181.12㎡